

東日本大震災被災地の子ども達に 学用品・花苗を届けようプロジェクト



被災地にポツンと咲くひまわり
くじけるなと応援してくれているようでした

支援活動の記録
(2011年3月11日～8月31日)

特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所

ごあいさつ

このたびの震災被災地域への支援活動に、全国の皆さまからご協力をいただきましたこと、まずは心からお礼申し上げます。

私達は日ごろ、おもに不登校や学習につまずきがちな子ども達の支援に取り組んでおります。今回の活動も、そんな子ども達からの提案により始まったものでした。皆様からお届けいただいたあたたかい心は、被災地の子ども達ばかりでなく、彼らの心にも変化をもたらしたように感じております。

あの日からすでに、半年の月日が過ぎようとしています、本当の意味での復旧、復興はまだこれからです。

「忘れないでいてもらえる。遠くからでも応援してくれる人がいる。それが心の支え」と言った方がいました。私達は小さな団体ですが、細くとも長く、心の通う支援を続けたいと考えております。

活動についてはまだまとめきれていない部分もありますが、本冊にて、これまでの活動の概略をご報告をさせていただきます。皆様から頂いたご協力に対して、重ねてお礼を申し上げますとともに、今後も引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

2011年8月



特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所

代表 小野村 哲

3月11日

午後2時46分、ライズ学園は授業の最中でした。

激しい揺れにコピー機が飛び跳ね、机の下に身を隠した子ども達に本棚が倒れ掛かりました。しかし誰一人取り乱すこともなく冷静に行動し、全員が無事に帰宅しました。

ライズ学園の子ども達
終業式に



震災直後のライズ学園
コンピュータ室

教室が再開できたのは、それから一週間後のこと。

「何かできることはないのかな？」

「机の中に眠っている文房具を集めて送ろう」

子ども達からの提案を受けて、インターネット上で協力を呼びかけました。

全国に広がった支援の輪

すると、連日たくさんのお問い合わせをいただき、全国から鉛筆やノート、消しゴムといった学用品が送られてきました。

狭い教室はあっという間にダンボール箱で埋め尽くされました。

仕分け作業の様子



ライズ学園は春休みに入っていましたが、子ども達と学園スタッフ、そして保護者の方にも力を借りて仕分けを行いました。

鉛筆は濃さ別、ノートは教科学年別にまとめるなど、送り先の皆さんの負担を軽減できるようていねいに仕分けをしました。

夜遅くまでの作業になりましたが、子ども達が根気強く作業に取り組む様子に、取材にいらした新聞記者さんも感心していました。

福島・宮城へ

3月の末には福島県いわき市を訪れました。しかし現地の混乱は大変なもので

「まだ、学用品までは頭が回らない」というお話でした。



満載された支援物資

女川町立病院から



それでも少しずつ支援要請が寄せられるようになり、4月8日～4月11日に、福島県いわき市、会津若松市、宮城県仙台市、東松島市、女川町へ支援物資を届けに向かいました。

道路はまだやっと通れるといった状況、大きな余震やひどい雷に襲われましたが、新学期が始まる前に皆さんからお送りいただいた学用品をお届けすることができました。

福島・宮城へ



いわき市教育委員会にて



会津若松市方丈舎にて



女川第二小学校にて



宮城県仙台市物資集積所にて

これまでに、いわき市には「長靴約900足、手作りバッグ約200セット」など、沿岸部から避難した子どもたちを支援しているNPO法人寺子屋方丈舎には「色鉛筆50セット、お絵かき帳70冊」、女川第二小学校には「傘約400本、子ども用マスク2,000枚」、宮城県には「下敷き6,000枚、シャープペンシル替え芯240個」など、合計で約4万点をお届けしています。（*合計数値は概算。現在、集計途中です。マスクなどは、50枚で一箱と数えています。その他詳細は、当法人Webページ <http://rise.gr.jp/> をご覧ください。）

日々変化するニーズ

茨城に戻って数日後、うれしい電話をいただきました。
「新学期が始まって、子ども達の声が戻ってきました。やっと学校らしくなりました」

先生によれば、ある保護者の方は

「何もかも失って、もうこの町を離れようと思ったが、子ども達に傘まで用意してくれるなんて、もう一度ここでがんばってみようと思う」と言われたそうです。



自製した英語教材

しかしよく伺えば、
「大学ノートはあっても、小学生用の算数ノートがない」「副教材を購入したくても、保護者から教材費を集められる状況にはない」とのことでした。

私達はあらためて全国の皆さんや地元の学校に協力をお願いしてノートの収集にあたるとともに、独自の工夫を盛り込んだ「英語ペンマンシップ」、そして「英語罫線（4線）ノート」1万冊を製作し、岩手県や宮城県、福島県の中学校にお届けしました。

復旧・復興への歩み

8月8日から10日には、岩手県山田町、宮城県女川町、東松島町などをお訪ねしました。復旧作業は思っていたよりも進んでおり、献身的な作業をされている自衛官や警察官の皆さんへの感謝の言葉を各地で耳にしました。

「あたたかい支援に応えるためにも、自分達でできることは自分達の力で頑張ろう」と、被災地の皆さんも復興に向かって確実に歩み出しているらしやいました。



女川町立病院から
(4月と同じ場所を)

一方、「子ども達は勿論、保護者への支援も必要」との声も多く聞かれました。しかし、そうおっしゃる先生方の中にも、「まだ家族の遺体が発見されない」という方がおられるなど、先生方や関係者の皆さんへの支援も必要であると感じました。

特にこれからは、「地元経済再生のための支援、そして心の支援が重要になる」とのお話でもありました。

花の力で子ども達を元気に

東松島市では園芸業も盛んです。地域の活性化にもつなげるため、私達は皆さんからお預かりした支援金で、現地の園芸農家さんからマリーゴールドなど合計約3,500株の花苗や野菜苗を購入し、同市6校の小中学校にお届けしました。



大切に育ててくれていました
(東松島市立矢本第二中学校)



仮設住宅で埋まった校庭の片隅で、
野菜達も元気に育っていました
(東松島市立宮戸小学校)

直接津波の被害を受けた学校では、塩害により学校の植え込みが枯れるなどしていました。

「最初は、それどころじゃないと思った。でも、今になれば、本当に植えておいてよかったと思う。子ども達も私達も、どれだけ励まされているかわからない」と言ってくれた先生もいました。



枯れて茶色くなった植え込み
手で触れると、葉や枝がパラパラと
崩れ落ちてしまいます
(東松島市立大曲小学校)

園芸農家を訪れて

東松島市では、協力いただいている「辺見造苑」さん、「尾形園芸」さんにも伺いました。尾形さんには、農園の隅々まで案内していただきました。

「3月も辛かったが、よしこれからと思って作業を再開したときに来た4月最初の余震がもっと辛かった。でも、応援をしてくれる人がいると気を取り直した」と、おっしゃっていました。



東松島市野蒜にある
尾形園芸さんのハウスにて



出荷を待つ葉ボタンの苗

ハウスの中では、秋の出荷に向けて「葉ボタン」や「パンジー」の苗が育っていました。

「花苗や植込みまでは、なかなか予算がまわらない」という声もあります。茶色く枯れた植込みとなればなおさらでしょう。できることなら、来年の春、新入生を迎える時には、チューリップで校庭をいっぱいにしたいものです。

今回の震災で辛い思いをした子ども達は、将来きっと素晴らしい人として育ってくれると確信します。また、そうなるように支え続けることが、私達の役割だと考えています。



5カ月たっても海水が引かない
被災地

これからの支援

被災地を訪れ、そこに住む人たちの声を聞き、改めて被害の大きさを実感しています。

「先行きが見えない不安もあり、晩のおかずのお豆腐一丁を購入するのもためらってしまう」

「狭い仮設住宅の中で、職を失った保護者と子ども達が顔を突き合わせて、ストレスをためている」

「経済的な理由で、部活をやめる子が増えている」とも、聞きました。



復旧の手が届いていない老人ホーム
屋上にはまだ自動車が



津波に押し流された高架鉄道
線路の上には、押し流された家が

今後は、地域に暮らす人々が自らの手で復旧・復興を進めるための支援が、重要になります。地域によって復旧作業の進み具合にも差がありますが、大切なのは、思いを共有し、細くとも長い支援を続けることだと思います。

私達のような小さな団体にできることは限られていますが、皆さんと力を合わせながら、今後も被災地の皆さんのお手伝いをさせていただければと思います。

変わらぬご支援、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

まとめにかえて

今回の支援活動に際しては、全国、そして遠くはアメリカからもご協力をいただきました。本来であれば、お一人お一人にご挨拶に伺うべきところですが、この小冊子をもってお礼にかえさせていただくこと、どうぞご容赦ください。

リヴォルヴ学校教育研究所では、今後、「ホープ常磐プロジェクト」とも協働し、子ども達への支援を継続する所存です。同プロジェクトからは、これまでに多くの協力をいただいております。

支援活動を通じて、私達はより多くのものを被災地の方々からいただきました。これを機に、明日のわが街をより素晴らしいものとするのができたらとも思っています。

「がんばっぺ 東北」「がんばっぺ 日本」
「がんばっぺ 私達が暮らす街」

そして最後に、心からの「ありがとう」
をあなたに。

2011年8月

ライズ学園在園生 一同
同 2010年度卒園生 一同
リヴォルヴ学校教育研究所
スタッフ 一同



国道45号線沿いで
見つけたのぼり
「道は険しくとも笑顔で」

《 本冊についてのお問合せ先 》

特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所
〒305-0051 茨城県つくば市二の宮4-3-2 二の宮コーポ C-101
TEL : 029-856-8143 FAX : 029-896-4035
E-mail : rise@cure.ocn.ne.jp ホームページ : <http://rise.gr.jp/>